



福祉公社は、武蔵野市が全国に先駆け、昭和 55 年に設立した在宅サービス提供機関です。  
誌名「羅針盤」はご利用者を包括的に支援し、その人生と共に歩むサービスの基本姿勢を表したものです。



啓蟄も過ぎ、春の足音に小さな生命が営みを始め、  
玉川上水の土手に筆の花～土筆が顔を出しています。

明るい春の日ざしの中、新しい土の匂いと共に伸び  
行くその姿に、新たな人生の門出を迎える若者たちの  
健やかな成長を重ねる季節です。



<紙面から

つながりサポートレポート	・・・1ページ
権利擁護事業運営監視委員会 ホームヘルプセンター研修	
台湾からの視察団来訪	・・・2ページ
デイ行事・北町センター	・・・3ページ
お知らせ・リレーコラム	・・・4ページ



## ～『つながりサポートサービス』のある生活～



3月31日を以て、昭和56年以来の有償在宅福祉サービスは終了し、全面的につながりサポートに移行します。伝統の在宅サービスの理念を継承したつながりサポートのご利用者Aさんがサービスについて語ってくださいました。

高齢社会でのその効用の一端をご理解くださればと存じます。



### <つながりサポート契約のきっかけについて>

私は独り暮らしで兄弟はいますが、遠方に住んでいます。兄弟には家族もいるので、私のことで迷惑をかけたくないと思いました。そんな時、市報で公社のつながりサポートを知りました。入院の手続きや没後のこと、老いじたくのことをお願いしたいと思ったのがきっかけです。

### <職員との関わり、支援のあたたかさ>

アパートに住んでいるのですが、住人同士の付き合いはほとんどありません。挨拶程度です。そんな生活の中で、公社の職員さんが訪問してくれるのはとても嬉しいです。

“誰かとつながっている感覚”と言うのでしょうか。安心感があります。

ふだん、福祉公社本部事務所近くの病院に通院しています。時々、通院後に事務所に立ち寄ると在宅サービス課長の荒井さん含め、どの職員さんも嫌な顔一つせず笑顔で対応してくれて嬉しいです。いつも突然の訪問で申し訳ないのですが(笑)。



それと…今月、腎臓の手術をしました。手術後、麻酔から目が覚めると、主治医からの病状説明を受けに来た公社の職員さんがそばにいてくれました。安心感というか感謝です。

兄弟も遠方で頼れる人が近くにいないのです。寄り添ってくれる感覚は他にはかえられません。

Aさんの今後のご希望は「終活」です。福祉公社の多様なネットワークを活かして、Aさんを支援いたします。つながりサポートは、ご利用者それぞれの生活、人生に合わせたプランニングをします。

福祉公社にしかできない役割を果たして、市民の皆様の支えとなります。

どうぞ、お気軽にご相談ください。権利擁護センター ☎ 23-1165



## 平成 28 年度第 2 回 権利擁護事業運営監視委員会 開催

今回は昨年 7 月から 12 月までの事業を対象とし、1 月 27 日に開催されました。これに先立ち 1 月 17 日に事前検査が実施され、3 名体制で 9 時 30 分から 20 時 30 分までかかり、総チェック件数は 2,387 件でした。

新規契約者の保管物、成年後見・金銭管理支援・権利擁護・地域福祉権利擁護・つながりサポートの各事業に関する全ての出納を入金・出金伝票や通帳明細と照合し、適正に執行管理されていることが勅使委員から報告されました。

各委員からは福祉公社利用に至る経緯や支援内容、市長申立における福祉公社の成年後見人就業状況、負債の多い被後見人の金銭管理の正常化、独自の権利擁護事業が今年度終了することに伴う契約移行状況、成年後見人等報酬支払費用助成制度などに関し、質問が出されました。

終わりに棚橋委員長より、「これからも人口減・高齢化が進行し、益々、権利擁護事業等の重要性が増す。福祉公社は高い信用を得ているので、これからも適正な事業執行に尽力するように」との講評がありました。

公社権利擁護センターは、市民生活を権利擁護・成年後見の側面から支援し、「住み慣れた所でいつまでも」という福祉公社の信念のもと、地域包括ケアの一翼を担ってゆきます。



## ホームヘルプセンター武蔵野 サービス提供責任者研修

### 「対人援助に必須！！他人から見た自分を知る」

訪問介護でヘルパー派遣のコーディネートをするサービス提供責任者は、ヘルパーと協働してご利用者の福祉ニーズを充足する要となる存在です。

その現任者研修を 1 月 13 日、熊本大学名誉教授吉田道雄氏を講師に開催し、市内の各訪問介護事業所に所属する 31 名が参加しました。

自分を知らせること、他人を知ること、他人から見た自分を知ることなどを通して、人間関係を円滑にし、より良い職場環境を構築することを、グループワーク中心に学びました。

参加者からは、「他人から見た自分を紙に書いてもらったのは初めて、宝物にする」「自分の良い点を伸ばす努力をしたい」「他者とのコミュニケーションに役立った」「もっと優しく包容力のある愛情あるケアを目指す」などの感想を頂きました。

今後も市内訪問介護事業所のサービス水準の向上のために、有益な研修を実施します。



## 台湾からの武蔵野市視察団来訪 補助器具センターへ

1 月 17 日に台湾の衛生福利社会及家庭署（日本でいう厚生労働省）の職員、医療保健福祉関連の国立大学や研究所の職員総勢 17 名の視察団が、高齢者に対する福祉用具の給付政策や障害者への補装具の給付政策の見直しなどの参考にするため武蔵野市に来訪されました。

市役所で「市の現状と地域包括ケアシステムについて」等の多岐にわたるレクチャーを受けた後、高齢者総合センターを訪れました。そして、補助器具センターの役割や実際の活動内容などについての説明後、活発に質疑応答がなされました。

補助器具センターの実践が、台湾で、少しでもお役に立てれば幸いです。



補助器具センター  
説明の様子



視察団の方々と記念写真

## 恒例 節分 北町高齢者センター



2月3日、節分の豆まきをしました。センターでは殻つきの落花生を使います。殻の中のお豆が福の神です。殻の中に福が隠れています。



今年も青鬼・赤鬼が乱入してきました。ボランティア体験中の成蹊大学Aくんも鬼に扮してくれました。彼はジョンレノンのようなヒゲを蓄え、背も高く、迫真の演技です。

鬼に向かって、最初は皆様、遠慮がちに豆を投げていましたが、鬼が誰だかわかるとそのうち本気モードに(笑)、「鬼は外、福は内!」、鬼やらいの声もどんどん大きくなります。

午前の福の神は男性ながら所長、皆様の健康長寿、家内安全、当病平癒・・・を願いつつ春を招く花びらを撒きました。



午後の福の神は誰? 「あっ、新しいセンター長よ。方波見さんだわ」、今年も北町に優しい福の神が来てくれました。

## 高齢者総合センター 節分行事



今年はノロウィルスの影響で恵方巻作りを中止しましたが、代わりに美味しいちらし寿司を頂きました。

午後には「鬼の石段」という秋田県男鹿地方の民話を基にしたご利用者参加の寸劇をしました。スタッフ扮する中国の皇帝が鬼(年男のご利用者)を連れて村で乱暴狼藉の限りを尽くします。

「泣く子はいねがー!」。村人は夜明けまでに1000段の石段を造れたら可愛い娘(ボランティアさん)を生け贄にしますと約束。並外れた力を持つ鬼は難なく999段まで造ります。

そこで一計を案じ、一番鶏(ボランティアさん)の鳴きまねをして、鬼を退散させました。そのあとは豆まきです。所長の赤鬼、青鬼に扮した理事長は手作りの寅のパンツで登場です。

98歳のSさんは立ち上がって思い切り豆をぶつけていました。「ぶつけられるだけ、ぶつけてやったわ!」との勇ましいお言葉、お見事でした。



## デイサービスセンター 賑わい ひなまつり



「ユースフルメッツ」による大正琴演奏で第1部が開始! 11名の演奏者は美しい春色の衣装に身を包んでの登場でデイルームは騒めきます。「真夜中のギター」の切ないトレモロ、「釜山港へ帰れ」では大盛り上がり! 司会者との掛け合いで会場は笑いの渦!!

2部は「動くお雛様」。スタッフ、ボランティア、ご利用者が着飾り琴の音に合わせて歌い踊ります。ご利用者演じる右大臣がボランティアの三人官女の注ぐお酒で酔っ払い、迫真の演技にお腹を抱えて大笑い! ひな人形では赤いお顔は左大臣ですが・・・。



## 北町高齢者センター 山崎浩・倫子先生ご夫妻の おこころざしを形に

名誉市民・山崎倫子初代北町高齢者センター所長の居宅部分が市に遺贈され、昨年、その活用方法が旧山崎邸活用検討委員会により纏められました。センターの事業との連携、山崎先生ご夫妻の遺志の尊重、ボランティアの意向の反映、武蔵野市らしい付加機能の4点を基本指針として、一階部分をデイサービスの拡大、二階部分を子育てひろばとして使用することがその内容です。

現在、改修工事の準備やボランティアの皆様と協力して、先生ご夫妻のご功績を顕彰するメモリアルルームの展示物の用意等を進めています。

3月は倫子先生の誕生月、先生のおこころざしを仰慕する多くのボランティアの皆様が集いお祝いをしたのが、昨日のここのように思い出されます。

福祉公社は、これからも先生ご夫妻の理念を継承してセンターの発展に力を尽くします。



シンボルツリーはなみずき

# 公社からのお知らせ

老いじたく講座 創業36年の総合的支援のノウハウで 尊厳ある老後生活の構築を

日時	3月21日(火) 13時30分から15時
場所	高齢者総合センター4階研修室
内容	老いじたくの基礎知識
日時	3月24日(金) 13時30分から15時
場所	福祉公社1階会議室
内容	エンディングノートの書き方講座
日時	3月27日(月) 13時30分から15時
場所	高齢者総合センター4階研修室
内容	老いじたく・成年後見相談会 (個別のご相談を承ります)

お気軽にお問い合わせ下さい

お問い合わせ・申込

権利擁護センター

☎ 23-1165

## 職員リレーコラム 第34回

《パパゼリー》 権利擁護センター 宮地 紀子



パパゼリーなるものをご存知でしょうか。あるいは、肝油ドロップと書くをご存知の方も多  
いと思います。それらは、寒天ゼリーに砂糖を薄くコーティングしたフルーツ味の小さなビタ  
ミン剤です。私が幼稚園に通っていたころ、降園時に先生がいつも一粒くれました。私はその  
パパゼリーが大好きでした。むしろパパゼリーをもらうために幼稚園に通っていたと言っても  
過言ではありません。

ほんの小さな一粒を愛おしみながら、味や食感を楽しんでいたことを、今でも覚えていま  
す。そんなパパゼリーを、思い出したきっかけが最近ありました。忙しい朝、寒さのために炬  
燵にもぐって「保育園に行かない」とぐずった息子に、とっさに、「玄関で靴を履いたら、グ  
ミをあげる」と約束しました。その後も、登園前のグミが定着してしまいましたが、保育園に  
行きたくないと言うこともなくなりました。

簡単にエサで釣られる我が子に、自分の幼き日を重ね、懐かしいパパゼリーの食感を思い出  
したのでした。 ⇒ 次回は 権利擁護センター 木村 未歩子

編集・発行 公益財団法人 武蔵野市福祉公社 次号は平成29年4月10日発行予定です



### 武蔵野市福祉公社・ホームヘルプセンター武蔵野

東京都武蔵野市吉祥寺北町1-9-1

バス停「武蔵野八幡宮前」下車

☎0422-23-1165 (総務課、在宅サービス課)

☎0422-23-2611 (ホームヘルプセンター武蔵野)

### 武蔵野市立高齢者総合センター

東京都武蔵野市緑町2-4-1

バス停「武蔵野住宅」下車

☎0422-51-1975 (管理・社会活動センター)

☎0422-51-1974 (在宅介護支援・補助器具センター)

☎0422-51-2933 (デイサービスセンター)

### 武蔵野市立北町高齢者センター

東京都武蔵野市吉祥寺北町4-1-16

業務時間 8:30~17:15 (全て共通)

福祉公社ホームページ

URL <http://www.fukushikosha.jp/>